

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271200679		
法人名	特定非営利活動法人ハッピーネス福祉会		
事業所名	グループホーム琴の海		
所在地	長崎県東彼杵郡東彼杵町蔵本郷884-1		
自己評価作成日	令和5年1月30日	評価結果市町村受理日	令和5年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年2月27日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

室内は、杉の木を使用した木造平屋作りの建物で、リビングからはみかん畑や山が見渡せる場所にあり、中庭は季節の木や花が植栽された明るく開放的な居室空間である。また、キッチンからリビングの様子が見渡せ、利用者とのコミュニケーションも図っている。定期的に避難訓練・災害訓練を実施し地域住民との連携体制ができ、安心安全な暮らしに努めている。ホームでは各種イベントを開催し、利用者は充実した豊かな生活を送られるように努めている。イベントの様子を写真に収め、ホーム内に掲示し、来所頂いた方にも観覧して頂いている。又、その時の様子を御家族に動画配信を行っている。職員は家族や地域の方がいつでも気軽に来て頂けるような雰囲気作りも心掛けています。職員は現状に満足することなく意欲的に資格取得や技術の向上に向けて努力している。日々、皆様の健康維持に努め、脳の活性化の為に学習療法(読み・書き・計算)を取り入れ、職員と利用者は毎日を活き活きと楽しく過ごしている。御家族がホームで看取りを望まれば、利用者と家族が最期の時を共に過ごしていただけるように配慮し、御家族の精神的・肉体的な緩和ケアも行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは木造平屋造で長閑な場所に立地し、中庭には季節の花木を植栽した明るく開放的な環境にある。栄養士による充実した食事提供や、歯科衛生士による口腔内の健康管理、入居者とお別れ会や家族へのグリーフケアによる看取り支援など、ホーム長をはじめ多職種と連携し入居者へのチームケアは高く評価できる。運営推進会議は、地域代表、民生委員、消防団団長、社会福祉協議会、役場職員、地域包括支援センター職員で構成しており、会議を通じて職員が意見を発表する場を設けることで、職員の意識の向上に加え、地域に開けた透明性のある会議に繋がっている。ホームでは学習療法として、前頭葉を刺激することで流涎予防や発語改善が期待でき、入居者が読み書きや計算が円滑にできる教材を使用した公文式学習療法を採用し、入居者が自分らしくホームで暮らせるよう支援している。家族との連絡方法にはLINEを整備し、面会制限がある中、入居者の動画を送信する等、家族とのコミュニケーションツールとして使用している。地域とともに入居者が生活し、最期まで支援するホームの姿勢は、今後も期待が持てるホームと言える。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	琴の海の理念「共に喜び共に悲しむ」を理念に、利用者の能力に応じた活動(料理の下準備、洗濯干したたみ等)を一緒に行なっている。また、利用者家族の了解のもと、利用者の住まい周辺の方々の面会の受け入れや地域の人たちを夏祭りやクリスマス会などの行事に招いている。現在はコロナウイルス感染防止のため受け入れを中止しているが、感染状況をみて再開を行う。	職員が理念を、常に意識した支援ができるよう理念を目につく玄関の入り口に掲げている。新人職員が理念に基づいた介護への思いを課題として発表する場を設けたり、朝の申し送り時や、カンファレンス時等に入居者がより良く生活するための生活支援をどのようにしていくか等、改善策について話し合い、常に理念を基本とした支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開放的な運営を行えるように、地域の方から野菜の差し入れがあったり、利用者とともに作ったしそジュースをおすそ分けしたりしている。また、毎日交代で利用者と琴の海周辺へ散歩に出かけ、地域の方との交流を図っている。地域にある認定こども園へ訪問して交流を図った。(感染防止のため園庭で)	地域住民から野菜の差し入れがあり、その材料で調理したものを地域住民へお裾分けしたり、ホーム付近を散歩した時に近隣住民と挨拶を交わしている。地域にある認定こども園へ訪問するなど入居者が地域の方々と交流できるよう支援に努めている。地区公民館で行う集会に参加するなど、ホームの特性を活かしながら地域一員として溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、火災時の避難訓練、ホームでの行事への参加を通じて、ホームのあり方や認知症の方への支援方法などを理解して頂けるよう努めている。相談等があれば、その都度応じて不安の緩和に努めている。常時ホームにはスタッフが居るので、地域の方の急変時などに役立っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事の報告、事業所内の問題点や今後のケアや行事の取り組みなどについて話し合っている。また、スタッフによる「介護職に就く前と就いた後の考えや気持ちの変化」について発表し、それから感じとられることをヒントにスタッフの育成につなげている。ちなみに、出席できないご家族に向けて、議事録や報告をLINEを使って送っている。	運営推進会議は東彼杵町社会福祉協議会の会議室で開催している。地域代表、民生委員、消防団団長、地域包括支援センター職員、地区長、役場介護保険係、家族が構成メンバーとなり、多方面からの意見や質問等が挙がり活発な会議となっている。ホームの行事報告等のほか、ホームの上層部だけでなく、職員が介護についての思いを発表する場を設けており、有意義な会議となっている。	
		市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の利用状況の報告も毎月行なっている。また介護保険更新時にも連絡し確認を取り、地域包括支援センターや健康ほけん課と協力関係を築いている。	ホーム長が月1回は役場に出向き、介護認定の書類や月次報告書、事故報告等を持参したり、困難事例について相談したり、生活保護課へ連絡し連携を図っている。今年3月には実施予定の消防避難訓練に役場職員が参加する旨の連絡がある等、積極的に協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権を守るため身体拘束をしない方針でサービスを行なっている。身体拘束が必要な場合は、本人・家族等への説明を行い同意を得ている。また、職員は外部の身体拘束に関する研修会に参加し、琴の海内で施設内研鑽をして身体拘束の理解を深めている。又毎月のカンファレンス時に適正化委員会を開いて、身体拘束や不適切なケアを行っていないか確認している。	身体拘束に関するマニュアル、指針、同意書を整備している。身体拘束委員会は毎月カンファレンス時に全職員が委員として参加し、諮った内容を記録に残している。職員は身体拘束に関する外部研修、オンライン研修、内部研修を受け、身体拘束防止について理解を深めている。居室にセンサーを設置する方がおり、家族にはその必要性を説明し、口頭で同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外で虐待防止の学習を行っている。利用者からつねられたり、叩かれたりする事がある時は、職員同士で相談し、悩みを共有している。そして、対応方法をみんなで話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスや勉強会を行い制度を理解している。以前入所していた利用者で成年後見制度を利用されていた。そのケースを参考に成年後見人との連携のあり方や、本人がよりよく生活されるような協力関係を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、法改正時の際は家族に説明し、了解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誕生会・夏祭り・クリスマス会等の行事に参加された時に、家族の方の意見を聞き、カンファレンスを開き、職員一同で内容を検討し反映させている。また家族が来所された折にもお話を聞き意見を反映させている。現在はご家族とLINE交換をしているので、相談や要望がある時はLINEで気軽に受けている。	家族との連絡方法としてLINEを活用している。家族全員とLINEによる情報共有ができ、入居者の動画を送信したり、家族からの意見、要望を聞き取るツールとして利用している。コロナ禍により短時間の面会を行うこともあり、家族から話を聞く機会を設けている。自分の意思を伝えることができない入居者には、職員が日頃の支援の中から要望等を汲み取り支援に繋げている。	指針改正を踏まえ、家族等へ重要事項を説明する際には、第三者(外部)評価の受審状況として、実施の有無、評価機関名、評価結果の開示状況を重要事項説明書に明記すると共に、外部評価の受審時には家族へアンケート調査があり客観的に家族意見等を汲み取る機会となる旨を伝えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務の希望や人員等、職員の意見や提案を聞き反映させている。月1、2回のカンファレンスで行事や誕生会のイベントについて話し合いを行い、意見を反映させている。お互いに意見を言い合える関係を築き利用者のサービス向上に繋げている。利用者の状況によっては、職員数を増やすなどの体制も強化している。些細な情報交換も行っている。	月1回のカンファレンス時には職員全員が参加し、その際に職員の意見や提案を聞き取っている。また、カンファレンス時に限らず、いつでも職員が意見や提案を管理者等に伝えることができる環境を整えている。行事計画時や居室の家具等配置など適宜職員意見を反映している。	介護現場において強化されているハラスメント対策について、事業者の方針等の明確化及びその周知・啓発、相談(苦情を含む)対応窓口、研修実施等、円滑な職員意見の反映に繋げる為にも、今後、事業所として体制を整備することが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や経験を活かした役割を持って仕事をしている。キャリアパス規程を設けている。職員の休憩時間の確保に努め、働きやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修も受講してもらっている。また施設では具体的なケースを用いて考える能力を養っている。係の役割分担を行い、責任のある役を経験年数や能力に合わせて与え、更なる進歩を促している。経験年数から資格取得を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	令和4年度は4回、地域のグループホームとの交流会を行い、専門職同士が集まり意見交換など行っている。事前に話し合うテーマを設定し、その事について各施設意見を述べている。また、その時知った良い所はホームに取り組んでいる。令和5年度、グループホーム交流会は年2回の開催となる。(スタッフの人員不足など)		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にケアマネ、家族から利用者の情報提供を受け事前に職員間で情報を共有している。結果、入所後、特に入所1週間は人員を増やしたり、利用者の傍に寄り添い、または見守り利用者の理解に努めている。また、慣れ親しんだ家具の使用や携帯電話の所持の許可をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスに関して家族からの要望を聞き、可能な限り応えている。希望があれば、家族の寝泊り、病院受診を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の身体状況や精神状況を考慮して、受け入れを判断している。事前情報、入所後の状況からアセスメントし、利用者の日常生活がスムーズにいくよう支援に努めている。入所後、特に1週間は利用者の傍に寄り添い、出来ること、出来ないことを把握し職員間で情報を共有し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼間は出来るだけリビングで過ごして頂き、テレビを観たり、新聞を見たりしている。利用者が生活の主体としていられるように、料理の下ごしらえやタオルたたみ等一緒に行い、共に支え合うようにしている。レクリエーションを共にし、喜び楽しみを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染予防の為、令和4年度は家族がホームに来ては誕生日を祝うことができず、職員と利用者の方々と誕生会やイベントを行った。その時の様子を動画に撮り家族に送っている。動画を見て家族はご本人のホームでの様子を知り、意見・感想を言いやすい関係になるように努めている。また、毎月の生活記録の報告書を家族に送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で開催される彼岸茶市(5月)は、家族の同意のもと積極的に参加され、昔馴染みの物を見学したり、顔馴染みの人との会話を喜ばれている。敬老会やクリスマス会に来所される方々との交流は長年続いている。家族、知人の方が来所された時には話し合いやすい環境を整えるように努めている。しかし、コロナ感染防止のため、令和3、4年は茶市は中止した。敬老会、クリスマス会は利用者とスタッフで行った。学習療法のボランティア サポーターの方はお休み頂いている。	コロナ禍により馴染みの場や人との交流は支援ができていない現状であるが、本人が希望すれば買い物への同行支援等、可能な範囲で支援している。今春には彼岸茶市への参加や、地域ボランティア三つ葉の会、学習療法のボランティアの支援等、コロナ禍以前に取り組んでいた馴染みの人や場と関係を再開する方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感情の変化を観察し、利用者同士が(新利用者には特に注意し)良い関係を保てるよう、食事時の位置・テレビを観る時の位置等気を配り支援に努めている。利用者同士の相性なども考慮し、席の配置をしている。喧嘩等の時は介入し、悪化防止に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方からのホーム来所や、ホーム在所時の写真希望などの依頼が多かった。(遺影に使用するため)現在の状況を尋ねて必要に応じては相談や支援に努め、退所後もホームにも来所しやすいよう関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で、外出や外泊等の要望や思いに対してすぐに対応している。電話を希望される方は、対応し思いを伝えることができる。家族からの飲食の差し入れについては制限していないが、毎日居室内の状況は把握して本人の確認のもと飲食物を預かることもある。	日々の入居者支援の中でその方の行動や発言を記録に残し、全職員で情報共有している。意思疎通が困難な入居者にはジェスチャーをしたり、ゆっくり話す等工夫し、コミュニケーションを図りながら表情やしぐさで思いを把握し、入居者一人ひとりの思いを聞き、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の利用者の状態を観察したり、家族から今までの生活状況の把握に努めている。介護ケアプラン及びケース記録・回想録等、また自宅を訪問し、今までの暮らしぶりを見せていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を日々のケース記録に記入し、またその時に職員がどう対応しているか状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療機関の意見を合わせた介護計画書を作成している。カンファレンスで利用者の担当者が心身状態、日常生活状態等を話し合い、介護計画に反映させている。問題がある場合にはミニカンファレンスを行い、現状に応じた介護計画を作成している。	介護計画は3か月に1回見直しを行っている。職員は入居者毎の担当制を採用し、担当職員が入居者の月次報告書を作成し、家族へ送付している。入居者の支援内容をケース記録に残し、介護計画見直し時のカンファレンスで担当者が心身状況や日頃の様子を報告し、必要な支援についてサービス内容に落とし込み、介護計画に反映して原案を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は日々の様子をケース記録に記入し、状態の変化等あればホワイトボードに変更等書き、スタッフ間で情報を共有している。状態の変化があればホーム長やスタッフ間で検討を行い、必要があれば家族に連絡を入れる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	経管栄養の状態の方や重度化された状態の方でも、医療との連携により受け入れ可能である。家族も共に支える姿勢で取り組んでいる。病院受診が必要と判断した場合、家族への連絡後、看護師は病院への支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学習療法のボランティアはコロナ感染防止の為、お休み頂いている。令和3年のクリスマス会に於いてオカリナ演奏をボランティアの方でして頂いた。ボランティア団体(三つ葉の会)との交流を月1回計画している。計画通り実施できない時もあったが、地域の方のサポートして頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を聞き、担当医を決めている。月1回の内科往診、平成30年度から歯科往診を利用者は月1回、義歯の調整、歯肉のマッサージなどの口腔衛生を受けられている。事前に連絡し往診時スムーズにいくよう医療側と連携をとっている。また急を要する時は受診もしくは往診依頼をその状態に応じて行っている。	入居時に本人や家族に入居後のかかりつけ医に関して説明し、希望を聞いている。月1回、ホームの協力医や提携歯科医が訪問診療を行っている。他科への受診について、ホーム長が受診支援を行っている。必要に応じて家族にも同行を依頼している。受診後の報告は、月次報告書に記載し、薬変更等特記事項がある場合は直接家族にも報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は介護職員からの情報、観察等により本人の健康管理を行っている。状態観察により主治医の診察が必要な時は病院受診し、治療を受けて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要となった場合は家族と連絡し、医師の状態説明を聞いて頂く。入院の準備はホームで行い、入院生活に支障がないよう配慮している。ホームでの本人の状況を情報提供を行い、特に認知症の具体的な言動を本人及び病院関係者が困らないように説明している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、利用者の状態が悪くなった場合、重度化対応、看取り指針等の説明を行っている。家族の希望を受けホームでは現在までに18名看取りを行った。コロナ感染の状況にあったが、感染防止に努めて面会制限は行わず、利用者との最期を共に過ごすことができられるように配慮した。	入居時に本人や家族から終末期の支援方法に関し希望を聞き取っている。終末期には看取りの指針を家族に説明し、家族の希望に応じた終末期の支援を行っている。看護師であるホーム長を中心に、喀痰吸引研修を修了した職員を配置するなど、多職種が連携して医療的措置を実施しており、これまで多くの入居者の看取りを行ってきた。看取り支援後には、祭壇に花を飾り、その方の在りし日の動画を流してお別れ会や家族へのグリーフケアを行うなど家族に寄り添い支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故が発生した場合は、ホーム長に連絡し、利用者を安全・安楽な体位にし、初期対応を行うようにしている。職員は落ち着いて対処できる様、心肺蘇生法や緊急時の対応を研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎日の火災チェック表の確認を行い、又火災を想定して、年2回地域の方にも参加して頂き避難訓練を実施している。災害時対応マニュアルや防災マップ、避難場所を確認し危険区域を把握して日々防災意識を持っている。水害に対しても町の災害対策に准じて毎年1回実施している。また災害時には消防団と速やかに連絡できるようにしている。	年2回の火災避難訓練や自然災害避難訓練には訓練内容や役割分担を決め、実際に避難受入れ施設まで入居者を避難させる訓練を行うなど実践的に訓練し、訓練後には職員間で反省点を共有している。緊急対応マニュアル作成や防災マップも整備している。職員は水消火器訓練を実施し、初期消火ができる技術を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬を持って傾聴し、言葉掛けや対応を行っている。また職員間でも勉強会をして言葉遣いや態度について意識し実践している。	接遇マナー研修について、管理者が作成した資料を用いて内部研修を実施したり、月に1回のカンファレンスを通じて入居者への接し方や居室への入室方法等について勉強会を実施している。たより等に掲載する入居者の写真に関し、入居時に写真の掲載の可、不可を家族へ確認し、同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮等から御自分の思いを伝えられない方、耳の遠い方等、表情や態度などを見ながら、声掛け・ジェスチャーなど行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝られる時、休まれる時、起きられる時、本人の状態や時間を見て尋ねながら、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで服を選んで頂いたり、本人や家族の希望があればカットをして、その方らしい身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事献立は栄養士が一人ひとりの好みを考慮し、栄養バランスを考え季節の物を取り入れた献立を作成している。個々人に合った食器やスプーン類の素材や形にも配慮している。また一人ひとりの咀嚼、嚥下機能、歯の状態を考え食べやすい形態にし楽しく食事ができるように見た目も考え、摂取して頂くように努めている。料理の下ごしらえや食器拭き等の出来ることはして頂いている。誕生日(祝い膳)、節分(恵方巻)、正月(おせち)などの行事食等食べて楽しむことを支援している。	ホームの栄養士が中心となり、献立表を立案し食事を提供している。栄養士が不在の際には、職員1名が調理を担当している。入居者の嗜好に配慮し、栄養バランスや彩り、品数等、食に対する拘りを持って入居者が食事を楽しみながらおいしく食べられるよう提供している。入居者の能力に応じた食器の使用や嚥下、咀嚼力に合わせた食事形態に配慮している。日常や行事食等、全て手作りで旬の食事を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減、利用者の一般状態や体温上昇、外出後等の状況を考慮し食べる量、水分量など考えて支援している。また、必要に応じて筋力や栄養アップのためプロテイン、メイバランス、アインカルゼリー等を通常の食事に加えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指導の下、毎食後は舌ブラシ、スポンジ、歯ブラシ、歯間ブラシ、口腔ケアウェットシートを使用し口腔ケアを行っている。うがいにはお茶を使用し、口の殺菌・口臭予防に努めている。また歯磨きに人体に害がないものを使用し、毎夜洗浄剤(歯科用義歯洗浄剤:デンチャークリーナー)で除菌している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレに誘導している。また、見守りできる環境を作っている。失敗された時は速やかに衣服を交換している。必要に応じて居室にポータブルトイレを設置し排泄の自立支援に努めている。リハビリパンツや紙おむつに変更する時は十分検討してから行う。	職員は入居者個々の排泄パターンを把握し、個別の排泄支援を行っている。入居者の表情や行動の変化で排泄のタイミングを察知し、トイレへ誘導する等、トイレで排泄ができるよう支援している。夜間のみポータブルトイレを使用する入居者の居室は、昼間はカバーを被せ、排泄の環境を排除している。入居者に応じたパッド等の使用については業者に相談して適切な使用に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な食品、乳製品を毎日の献立に取り入れている。また、排便促進に効果がある食品があれば提供し、効果があれば続けている。併せて運動や腹部マッサージも行っている。それでも改善されない時は緩下剤の使用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回以上入って頂き、その時の利用者の体調に合わせて入浴時間や、携わる職員数を変えて安全に楽しく入って頂けるようにしている。入浴日以外にも、病院受診や誕生会前、排泄等による汚染があれば臨機応変に対応している。	入浴日は週4回とし曜日を決めているが、入居者の体調など状況に応じて臨機応変に支援を行っている。浴槽の跨ぎが困難な入居者や重度化、寝たきりの入居者であっても浴槽に浸ってゆっくりと入浴ができるよう職員2人介助で行い、安全にも配慮した支援に努めている。脱衣室にハロゲンヒーターを設置し、ヒートショック等の事故がないよう留意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は利用者の身体状況に応じてベッドやソファで休んで頂いている。テレビを見て過ごされる方には、座り心地、安楽を配慮している。睡眠に不安のある利用者で、眠剤服用の方は4名おられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員が薬を服用されている。手にのせたり、口の中まで入れたり、トロミをつけて利用者に合わせている。薬の目的・作用・副作用を把握し経過観察に努め、状況に変化があった時には看護師や主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る事を活かしたお手伝いをして頂いている。気分転換の為、週課表に沿ったレクリエーションやホーム週辺の散歩を楽しんで頂いている。また、年に1度は花見・茶市・バイク・ハイキングにも出掛けている。ご要望がある方(食べたいもの:芋・みかん・おはぎ・混ぜ御飯等)は、その要望を叶えられるよう取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週1度は散歩に行けるようなスケジュールを組み実施している。何度も外に行きたい方があれば付き添い、車等からの危険を守るようにしている。利用者の希望があれば買い物に同伴したり、家族の希望があれば外出、外泊もされている。その他、年間行事の中の花見、バイク・ハイキングにも出掛けている。	コロナ禍により密になる外出を自粛している状況の中、近くの河川敷まで散歩したり、とどろきの滝まで足を伸ばすなど、レクリエーション担当職員が年間計画を立てて外出支援を実施している。希望に応じて買い物同行や買い物代行を行っている。昨年は全入居者と一緒におおむら夢ファームシュシュまで外出し、バイクを楽しんだ。その際には食事形態に対応できるよう食材を切るハサミを準備するなど、しっかりと準備し外出支援を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じてお金を持って頂いている。職員に欲しいものを頼み、買ってくることで欲求を満たしている。多くの方はお金の管理ができなくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に出る事ができる利用者は話をしたり、職員が手伝って利用者から電話する事もある。また家族に、時候の挨拶等ハガキで出せるようにも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、中庭の花々・生け花・飾り付けで季節を感じて頂いたり、音楽を流す事でリラックス出来る空間作りをしている。施設内は、生活空間の妨げになるような物を置かない事で利用者が安全で自立した生活が送られるように心掛けている。温湿計を設置することで意識して確認を行い、快適な温湿に努めている。	玄関やフロアには季節の花や以前入居者の家族から贈られた造花が飾られ、ガラス越しに木々を植えた中庭を設けている。清掃は2名の専門職員が交代で毎日ホーム全体の掃除や手すりの消毒を行い、清潔保持に努めている。換気は1時間に1回と常に窓をわずかに開放している。また、湿温計を壁に設置し、寒暖を確認して室温調整を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の座席やソファの位置・高さ等は、利用者がくつろげるように配慮し工夫している。問題がある場合、ミニカンファレンスを開き即時に改善出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた愛着のある衣服・布団類を持って来て頂いている。誕生会の御家族の写真や手紙をいつでもご覧になられるようにして安全で明るい雰囲気になるように整理整頓を心掛けている。	入居時に火気や刃物以外の持ち込みが可能であることを本人や家族に説明し、以前から使用していた馴染みの使い慣れた布団や衣服等、これまで使用していたものを持ち込み、入居者が家庭の生活に近い環境づくりに努めている。宗教に関する品を持ち込む入居者もあり、入居者個々の習慣にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態を考えて危険性のないように椅子やベッド、ポータブルトイレの種類や高さや位置を考えて身体拘束のないように工夫し、利用者の状態に変化があった時にはその都度話し合い変えるようにしている。		